信州たかもり温泉湯ヶ洞・御大の館の施設改修に係る町民説明会議事録

日時：2025年4月19日（土）15時～18時
開催場所：福祉センター大ホール
出席者：株式会社倉橋建築計画事務所
中央アルプスリゾート株式会社
高森町役場産業課

１、現状説明
事務局）信州たかもり温泉の説明については、これまでの検討委員会の経過についてお話をさせていただいた後、お手元にお配りしている資料をもとに、設計事業者から、基本設計の内容について説明をします。そのあと、工事費、工程表の関係をご説明させていただきます。
信州たかもり温泉の検討については、昨年の9月から、検討委員会を立ち上げ、この基本設計について、6回の検討委員会を実施しました。また、1月25日には、検討委員会の途中経過ということで、基本設計案の段階で説明会と意見募集をさせていただき、3月末に基本設計をまとめました。意見募集では、約200件以上のご意見をいただきました。今回説明する基本設計では、意見をもとにブラッシュアップしております。
設計事業者から、基本設計の内容について説明をさせていただきます。

倉橋建築計画事務所）
信州たかもり温泉のポイントは、新たなコミュニケーションの核となる場を作るということです。まずは全体施設から説明します。全体を見下ろしたイメージですが、こちらについては最後に触れさせていただきます。
意見募集の中の意見から、バリエーションが欲しいとか、高森町を認知しやすい施設が欲しいという意見をいただきました。また泊まりたい時に、部屋に泊まれないという声も結構あり、適した宿泊プランがないというお声をたくさんいただきました。また美味しい食事が提供される施設にしてほしいなど。また中には、尖った魅力のある施設に欲しいと施設が欲しいといったような声が出ておりました。そういった声を反映させまして両施設リニューアルし、町民自身が何度でも通いたくなる、つまり癒しの温浴施設の整備。そして今後、高森町が力を入れて行くべき観光拠点としての役割も担えるような宿泊機能を充実させたいと考えています。
　新しいたかもり温泉の目指すものということで、大きなテーマを掲げております。温浴、食事、宿泊の魅力を際立たせ、町民だけでなく、近隣住民、そして観光客にも魅力的な施設づくりを行う。さらに、利用者が使いやすく、運営者が働きやすい施設を目指します。そのために、改修方針としまして新たな魅力づくりとして、サウナを新設いたします。地域色のある食と空間づくり。食事ができる場所の提供、様々なニーズに対応する宿泊機能のバリアフリー化。これも大きなテーマです。

御大の館の入口を共通のエントランスとして利用します。温浴施設は、共通のエントランスから、2階に上がって、湯上がりのコーナー、そしてその奥にある御大の温浴施設を、現状と同じ使い方で。また、現在露天風呂のところに新たに森のサウナ塔という目玉の施設を作ることで、施設のイメージを動かすという、新しくしようという計画です。そして、現在二つの施設を渡り廊下で繋いでおり、かなり階段もあるとのことで、使いにくい渡り廊下なので、新たに展望スロープという渡り廊下を御大のエントラントに直接、湯が洞に行っていただくことができるような、新しい通路を作ります。レストランは、湯が洞に新たなレストランをつくります。さらに小さなお子さんたちにも楽しんでいただける魅力として、キッズコーナーを作ります。もともとあった宿泊機能については、さらに機能を充実させます。

建物全体については、基本的には既存利用して、見かけがガラッと全く変わるというわけではないですが、それぞれの建物の個性を活かした景観になるようにします。高森町の森といいますか、木の暖かいイメージを出したようにしていきたいと考えています。

この二つの建物の間、今のマイクロバスの駐車場になっているあたりは、人が集う賑わいが持てるような雰囲気が外に滲みでる、そんな感じの空間を作りたいと考えています。駐車場の考え方ということで、検討委員会でも色々議論した部分ではありますが、現状の課題として、現在利用者駐車場は約100台ありますが、週末はほぼ満車状態になってしまうので、今回の改修を機に効率的な駐車配置にできるように検討していきたいと思っています。同規模の運用施設を考えると理想的には、200台ぐらい停められる場所を確保したいです。

建物の内部について、ご説明をいたします。まず1階について、御大の館の1階部分になります。

現状は、エントランス部分にお土産コーナーがありますが、手狭な感じになってしまっています。今回の計画は、今ある柿丸君食堂の部分を湯ヶ洞に移動して、この場所を新たにショップとして整備します。ここには、お土産コーナーや、高森町の産物コーナー、この地域のサービスを販売するコーナーとして、生まれ変わりたいと思います。

さらに、食堂は宿泊者も日帰り温泉利用者も使えるレストランを設置します。広さもあり、眺めも非常にいいレストランになります。現在、卓球場になっている和風な部屋がありますが、こちらのお部屋は多目的室として地域の方の集まりや宴会など、また会議室とかで地域の方が色々な目的で使っていただけるような多目的室として、こちらは整備をする計画です。続いて、宿泊施設になりますが、湯ヶ洞の1階で、現在は厨房等がある部分をこちらは客室として、整備します。４人部屋の和室を想定しており、グループで利用したという大部屋があったところですが、現在のニーズに合わせた定員数で整備予定です。宿泊者の個人化、少人数化に対応できるお部屋として、部屋そのものに広さは少し狭くなりますが、細かい部屋をある程度作る予定で宿泊施設は改修を考えています。1階に宿泊者専用出入り口を計画しております。

先ほど、基本的にこの玄関は御大の館のエントランスに一本化するということ原則は変わりませんが、無人でチェックインができるようなシステムというのもかなり一般化してきておりますので、そういっ

たシステムの導入も考えております。
続いて、湯ヶ洞の2階ですが、現状の部屋割りをそのまま生かした、お部屋になっています。
靴の履き替えを通すエリアは、フリーで入っていただくエリアを広げてより、皆さんが利用しやすく、基本的に下足のまま、こちらまで上がって来られるということになります。
そして、お風呂に向かっていく途中ですが、現在外の眺めもあまりよくないのですが、明るい中庭にして、外の緑を楽しみながら現状のマッサージコーナーをより魅力的な空間を作っています。温浴施設につきましては、今ある脱衣室をもう少し広げられないかという意見をいただきました。こちらは、ご要望に応えられるように対応する予定です。その点、温浴施設の大浴槽の中に電気風呂や炭酸風呂とか、そういったアイテムを増やしてほしいとご要望いただいており、利用者さんに楽しんでいただけるメニューを現在検討しております。
露天風呂については、現在の浴槽はかなり広くていいお風呂なのでそのまま利用を活用する予定です。また、今回大きな目玉となるサウナを新たに作る予定です。このサウナは2階建てで、女性が2階、男性が1階を予定しております。高低差が約2.5メートルあるその高低差を生かして、2つのサウナを1つの建物に集約して、よりコンパクトに考えております。サウナブームもある中で、一味違うサウナを楽しんでいただきたいと思っています。変則的な空間ではなくて、外の雰囲気や光を楽しめるような魅力的なサウナを新たに計画しております。
新しく建て直す分、変わったなと皆さんに感じていただけるような施設を考えております。湯上り空間ですが、高森町の木材を使い森の中でくつろぐような、暖かい自然を活かして、たくさんの居場所空間をイメージして整備していきたいと思います。
最後に、御大の館、湯ヶ洞この名称については、皆さんから現在ご意見、ご要望をいただいており、新たな名前になる可能性もあると思いますが、この施設が高森町の町民の皆さんにとって誇りになるような施設になってほしいと思っています。
事務局）
続けて今回の改修事業費について説明をさせていただきます。今回の改修は2年間の計画をしており、2年の中の工事費が15億円の予定で計画を進めております。そのうちの半分、7億5千万円が国からの交付金を想定しており、この7億5千万円の半分の3億7500万円も国の補正予算債を利用して、町が負担するのは、3億7500万円の計画です。
工事については、湯ヶ洞を令和7年9月頃から令和8年の3月末までを予定。御大の館は、令和8年度の4月から工事を開始して工事完成予定です。令和9年度、もしくはそれより前で、両施設がフルオープンする計画で進めております。
温泉の源泉について、源泉の中が実際どうなっているのか、温泉がこの改修の後も汲めるのかどうなのかというところを詳細な調査を実施して、3月に報告しています。現在も調査を進める中で、今後もこの施設については温泉を汲み上げることが見込めるという結果になっています。源泉のポンプについては新しいものを据えて、汲み上げて、温泉を入れる形で計画しています。また、ハザードマップの関係

について、この施設がイエローゾーンに入っているということでご意見いただきました。こちらについては、3月議会の時に、説明しておりますが、基本的にはイエローゾーンに入っている状況ですが、現在もその状況で運営している状況です。改修計画の中で、イエローゾーンに対しての対策等については、現在考えておりません。これまで同様に危ないエリアであることを認識しつつ運営させていただき、大雨が予想されるときは、早めに閉館するなどといった形で対応していきたいと思います。

福祉センターの改修の計画の中に、財政見通し資料についてHPに公開しておりますのでそちらをご確認ください。

これから意見交換に移らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

２、質疑応答
参加者）
検討事項が多く本当に大丈夫なのか心配な点がいくつかあるのですが、その内容について、まず駐車場の確保をどうするのか。この計画全てを入れて15億円という予算が決まっているのに、計画をされているのか知りたいです。この台数では足りないと思います。駐車場が多くないと宿泊施設としても充実していかないと思うのですが。
それから玄関のアプローチに関してなんですけど、これだけ大きい施設の中で、この玄関は適当なのか。雨漏りの対策もなく、車いすもなくて本当に心配ないのか。スロープの設置も、屋根もないから雨の日の対策もなくてどうするのかが心配。もう少し、玄関周りを検討してほしいと思います。それから、両施設とつないでいるスロープですが、段差は1.47ｍという説明がありました。斜めに上がったりとしたのがこんな形になっていっておりますが。実はこの上に斜めの道路排水はあります。なんか私としてはすごい気持ちが悪いと感じてしまいます。
それから、この渡り廊下の防火区画っていうのはどうなのか？防火扉がきっとどっちかから、あるいはさっきの福祉センターではないが、両側に防火扉がくると思います。この2階のバリアフリーの対応をすると言っているが、この対策方法を知りたいです。
どういう施設でどうするのか、全く説明もないので、対応をどうするのかなという疑問があります。新たにできるサウナに対しても、バリアフリー対策をどのように取るのか。あと、食品衛生法で言いますと、厨房からパントリーまでの食事提供ラインに他のラインが入っているのが問題だと思う。下市田保育園はそれが課題で、直接食品を厨房へ届ける形に改修をしているはずですが、こんな大きい施設で、それを検討しないってどういうことかなと思います。あのプランの検討というのは、全部平面図を出してもらわないと検討もできません。コミックライブラリーが多目的室になり、会議等も実施できるというのはとてもいい提案だと思いますが、目安としてどのくらいの人数が入るのか教えてほしいです。
あと、管理人室ですが宿泊棟にもあったほうが良いと思います。無人チェックインの導入という話があ

りましたが、それだといつ誰が入ってくるかわからないので、しっかり管理できる体制を整えた方が良いと思います。あと、温泉テラスの2階のプランについて、展望テラスから男子のお風呂が見えてしまうのではないかと心配しているので、工夫して欲しいと思います。
事務局）
ありがとうございます。大部分は設計事業者さんの方から説明をいただくような形になりますが、駐車場の件はこちらから回答させていただきます。
1階の宿泊部分については、現在設計事業者さんとの中でも議論しており、結論はまだ出ていない状態です。
今お示ししているこのあの8台、14台というような、表記はしておりますが、そもそも既存の駐車場のエリアのところの区画自体を、もう1回考え直さないといけないのではないかというところも含めて、実施計画の中でこれから検討していきたいと思っています。
玄関アプローチの屋根の関係等についても、まだこの実施計画の中で修正可能な部分になってまいります。今、ご意見いただいた箇所についてもきちんと現地の確認を取りながら、修正し誰もが利用しやすい、そんな施設を作っていける形にしていきたいと思います。
これ以降の、スロープ、防火扉、既存の廊下の部分や、レストランの搬入の関係のところについては、設計事業者さんにお話をいただいて、管理人室の場合はそこでいいのかというところと、無人チェックインの所については、中央アルプスリゾートさんの方からお話をいただくというような形でお願いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

倉橋建築計画事務所）
まず、1階駐車場をどうするかはまだ検討中になるのですが、1階客室の目の前に駐車場があって大丈夫なのかという議論になります。やはりここは、駐車場になるかならないかにかかわらず、宿泊者以外の方が、この前の空間に行けるような状態であるとしたら、窓に何かしらの目隠しが必要になると思います。宿泊者と外を歩かれる方が直接バッティングしないような、動線計画を考えております。この1階の宿泊室の排水をどうするのというご質問がありましたが、１階の客室の床を上げるように考えております。ここには階段があり、40cmぐらい上げる予定ですが、ここについても、スロープをどうするのかという話もあり、この辺のレイアウトを今検討しているところです。スロープを併設することと床を上げることで、外と客室で目線の高さにはだいぶ差が出ていますので、バッティングすることはなく、プライバシーが確保しやすくはなります。
玄関となる入り口の大きさについてとスロープについてですが、ご指摘のあるように当然スロープを維持する階段だけではだめだというような条件の中で、今ちょっとかなり苦肉の形に上がっております。また雨の日の対策については、すべてではないのですが、その雨水が、この渡り廊下の下を通って流れていく形で検討を進めています。
ここにもご指摘のあるように、渡り廊下を建設するにあたり、両側に、防火扉というのは必要になって

いきます。これは既存の防火扉についても、バリアフリーの階段昇降機みたいなものをつけたら防火扉も納まらなくなるという、指摘もおっしゃる通りでございます。特にその辺りの検討を、進めているところではありますが、新たなスロープのところは、大きな防火扉を壁に打ち込むことではなく、シートシャッターという防火シャッターで、天井に納める必要な時に下ろすようなやり方を検討しています。
厨房の搬入の件につきましても、ご指摘の通りです。客動線を横切るようなスペースが、保健所的に大丈夫かというようなご指摘もあります。この辺については現在確認を進めているところですが、厨房のストックどこに移すか等についても今検討を進めているところです。当初、ここからの搬入を考えるときは、いろんな設備がある場所を考えておりましたが、条件を整理する中で、地下に冷蔵庫、冷蔵庫を置くという案も今並行して検討しております。また、多目的室については宴会ですと、席の予約にもよりますが、約30人対応できるような施設になっています。本体の2階の展望テラスから男子風呂が見えてしまうのではという点については、できるだけ南アルプスの方に寄って、眺望を最大限楽しむということで設置場所を設定しております。お風呂側に、目隠しの壁を立てたりすることも、技術的には可能ではありますので、検討課題として安全に外の空間を楽しんでいただけるテラスということで、もう少し検討を進めさせていただきたいと考えております。
お風呂のバリアフリー問題ですが、現状のお風呂に行くまでの経路については、特に女子風呂の段差があるところは、段差解消機というものを設置して、女子風呂も階段を通ることなく行っていただけるような経路を作りますが、露天風呂に出るところでの段差については、解消が難しい部分ではあります。車椅子で来るという想定は現在の施設の設計上も基本的にはしておりません。車椅子で来ることも可能でありますが、そこから先は、手すり等やあとは介助者についていただく、そういった形での対応をお願いしたいと思います。
先ほどいただいた宿泊入口の件は、パスワードで入れるようなシステムの導入を検討しております。誰でも入って来られるという状況ではないということはご承知おきいただけたらと思います。
先ほどあった管理人室については、いろんな議論がありましたが、お客様のスペースを犠牲にしてまでそこをとるべきなのかっていうのは課題です。実際運営していく中で、どうしてもあの湯ヶ洞側に必要になった場合は、お客様のお部屋を一つ使って、そこを管理人室にするということも視野に入れて検討しております。

参加者）
最後にもう一つお聞きします。観光協会は高森の顔なる目的で設立したと思うのですが、今度の計画案ではもうなくしてしまうということでお間違いないですか。

事務局）
　観光協会につきましては、今、御大の館内に事務所がありますが、この改修の後については、同じフロントのつながりの中で、温泉の受付もしながら、観光の案内も同じカウンターでできる形では利便性

はいいのではないかという話になっております。ただ、観光協会自体が本当にあそこにあるのがベストなのかどうかについては、実はこの一年間かけて、観光協会のあり方とか含めて考えていますが、場合によって将来的には、MIZBEステーション等にする可能性もあります。現時点では、もしあそこに観光協会の事務所を置くとなれば、同じフロントの中でやっていくのがいいのではないかと検討させていただいております。

参加者）
私の方から経営的なものについて、三点ほどのご質問をさせていただきたいと思います。一点目は、先ほどちょっと話がありましたけれども、温泉の湧出量です。現在は源泉の引き上げポンプが、全然動いていないのではないか。水道水を入れて温泉を経営しているというような形で、本来の効能がだんだん落ちている状況じゃないかなと思います。先ほど、ボーリング調査をしているとのことですが、その見通しでどのぐらいの量を確保できそうなのかということについてお聞きしたいです。

事務局）
まず、ボーリング調査ではなく、今の井戸の調査をしました。量のことについて、将来的にどれぐらい取れるのかという見通しについては、今回の調査報告書（スクリーン投影）の方を見ていただきたいと思います。この予測というものは非常に難しい部分があるので、過去の揚湯量調査からいくら取れるか、その結果をもとに推測するしかできないのですが、この形で行いくと、例えば今、曲線の急なものがあります。これは1990年この時の量から最近の量を見ていくと急激に減っていく可能性があるという曲線になります。もう一個緩やかな曲線っていうのは、例えばこれでいくと、2010年ちょっと前ぐらいの2008年、9年あたりや、2015年あたりですかね。直近がこの11.5㎥。これが令和6年2月の数字になりますが、この直近の3回の推計で見るとこの緩やかな傾斜になり、このぐらいの量で変化をするのではないかというようなところです。では、今現在使えるのかどうかということは、先ほど申し上げた通り、(温泉法上の)温泉として取水できるという状況であるということでご理解いただければと思います。

参加者）
昔のホームページを見ると１分間に30Lという量だったと思うが、もうこれ以上の確保はできないということか。現状維持か下がるしかないということは、これから温泉に通うことは非常に難しいと思います。今現在もそれができていないということは温泉施設という風に名乗れなくなってしまう。今の温泉法で言うと、温泉の成分があれば、いくら水道水を出していても、温泉だと言えるような状況だが、これでは自信持って高森の温泉という形のPRは難しくなってくるのではないかという状況で、今回改修をして本当に問題ないのか。だから一旦、足踏みになっちゃうかもしれないが、この温泉というところをまず解決しないと、希望を持った温泉施設にならないのではないかと思います。

二点目に収支の関係ですが、今回の改修をしてどれだけの収益が出るのか、お聞かせ願います。

町長）
まず町の方は、前回の17日にもお伝えしたのですが、例えばこの先、指定管理をお願いするとしたら、だいたい10年間ぐらいの指定管理契約を結んで、指定管理料はもう払わない計画でいます。収益に対してと町がお金をいただくかどうか、温泉が出ていると仮定してですが、入湯税以外の収益をいただくかどうかというやり方をしようとすると、まず指定管理で貸すことができなくなるので、賃貸借して、家賃をいただくというそういうやり方をとるかどうかっていうことになると思います。まず町の方は、10年間については、支出をなくすことを目標に動いていきたいと思っています。

参加者）
入湯税は指定管理者の収入になっていくのか？

町長）
町の収入です。

参加者）
なるほど。だから、指定管理者から町に入湯税をもらわなきゃいけないですね。例えばそういう形になったときに、その後の利益は指定管理者が自分の利益だという形で町に上げるのであれば良いと思います。ということは、町がこれだけの施設を作って、3億7000万ぐらいは町負担になるというような状況で、それがはっきりすると、例えば2%か3%の利子を払うだけでも、1000万近く毎月毎年払わなきゃいけない。また償却するにも、20年ぐらいかけて払うのか、10年経ったら3000万ぐらい払われていたということは、毎月4000万ぐらい町を持ち出している。本当に3000万も4000万もかけて、温泉についても先ほどのような心配ごとがありながらこの事業を進めていいのかどうか、一旦立ち止まって考え直した方がいいのではないかと思います。もっと、議会と町民の皆さんの意見を聞いていただければと思います。

三点目は、指定管理者というのは、この施設で出た利益をすべて持っていってしまう。この状況が本当にいいのか考えなおしてほしい。例えば、指定管理者の契約の中で、利益が出た場合には、3割を町へ、7割を指定管理者へということをしないと、町民のための施設だったら指定管理者との契約内容も検討する必要があるのではないかと思います。
あと、駐車場の問題や、汲み上げポンプなど現時点での課題を解決するのに色々追加費用が増えると思います。全体像を見据えて、この改修が本当に町のためになるのかどうか、もう一度見直した方がいいのではないかというのが私の意見です。

町長）
ご意見ありがとうございます。まず最後のお話になっていた指定管理者との契約内容については、これからも検討をしてまいります。そもそも指定管理のやり方でやるかやらないかという問題もあり、その指定管理に出すにはそれなりの制約があるので、それを収益があるからといって、その収益の何パーセントか、町の方に戻してもらっていいのかどうかとか、そういうところも少し確認をしなければいけないので、そういった作業を進めながら、もちろん、その利益が出たものについては、町に返ってくることも大事ですが、やっぱり地域全体の経済効果として、利益が上がることをやって、できるだけ地域全体が潤うやり方を提案いただくところを検討していきたいと思います。しかしその分野については、町もプロではないので、やはりそういう皆さんに頼っていかないといけないと思っているので、ご理解いただければと思います。

参加者）
普通の企業だったら、減価償却費を積み立てなきゃいけない、固定資産金を払わないといけない。でも指定管理者の場合は利益が出る。それから指定管理者は、町内の人や市内の人が儲かったら、それは税金でいただくこともできるけど、よその人だったら税金を町に戻さない、そういうこともあるのでその部分については、先ほどのお話があったように少し戻してもらうとか、利益の割合を考えようとか、そういう形のものも町の経営としてずっと考えていただければと思います。ありがとうございます。

参加者）
この会を継続して開く計画はありますか？今出されてきたことを意見だけ聞いて、もう実施設計も始まっているらしいが、いくらなんでもこれだけ出てきたことをもっと議論も必要だし、もっと説明を聞かなければはっきりしないことが出てきている。町長さんも議会で議論を説明してきたとおっしゃっていたが、それは2月25日ですよ。※私も無理やり傍聴しましたけど、2月25日という3月の議会直前に議会の人たちは、そこにいらっしゃる事業者の皆さんも呼んで、そこで初めて議会は情報を得てきている。※それからもうすぐ３月議会で補正予算を通してしまった。もう通ってしまったから、この計画を進めていく。スケジュールを見ても、もう実施設計に入っているじゃないですか。これは町議会、そういう流れでいけば、何も問題なく進んでいるように見えるけれども、今の私の話を議会ですら、2月25日、3月と情報を得て、きちっと自分たちで自分の頭で調査したい。議会の中で議論する時間もなく、もちろんそれを町民の人たちにこういうことが議会に話されました、この上でどうするか、どう考えますかっていうことを聞く場も時間のないまま3月議会で補正が通してしまって実施設計をやって、実施設計できれば入札して工事発注で。今出ていることは本当に重要なことが出てきているじゃないですか。そもそもここでやっていけるのか。そんなことを町民の人たち今のあのデータだって見ていないですよ。あの源泉のグラフ見てない私も初めて見た。あれを早く見せてくれってずっと言ってきて、今初めて見ました。どんなものを作ればお客を呼べるかっていうことでは、非常に優れた経験に裏打ちされた話だと

思います。でも、それをあそこでできるのかっていう町長さんのずっと何年か、民間の人にあそこをやってもらえないかと探してきたとおっしゃった。私の周りにいるこの近辺で大きな旅館業をされている方の話も聞けば、民間だったらあそこに作ることはしないと。公共の国の補助金を使ってやるから、ああいうとこで続けるだろうけども、民間はとても手を出せないとそういう話を聞いている。そういうのをいろいろ聞いて、それから情報も得た上で、あの条件はそれでも覚悟をして。さっきのイエローゾーンのリスクも認識した上で運営して情報もいろいろみんな分かった上で、どうするの？という話を始めないと、この工事だけどんどん議会通りました。はい、進めますようでは納得しきれないし、後でそういうことだった。何あそこ、そういうとこだったのっていう。そういうことになってしまう。だから議会も、ここにも議員の方たちいるけども、議会しっかりして、そこをちょっとストップして、もう1回そこを考え直してくれと言うしかない。もう町民はそう言うしかない。本当に重大な30年先の私たちの子どもや孫が、本当にここにあってよかったっていうような施設に思えるのかどうかっていう、その瀬戸際に来ているが、今日出されているような、こういう意見がまだまだこう踏まえている状態では進めては困る。だから今日のこの説明会で終わりにしてはダメ。今日出たようなことも検討する、検討会議を立ち上げないとダメ。なんとかしてください。このままではちょっと納得できません。

町長）
ありがとうございます。いろんな事業をやっていくのにどうしても決断をしないといけないのが、私たちの役目だと思っています。これは町長の役目だと思います。町民の皆さんは、いろんなご意見があります。ここにいらっしゃる皆さんが持っているような意見もあれば、早くやってほしいっていう意見を持たれている方もいらっしゃいます。なので、そういうご意見の中で、じゃあ、どういうふうな決断をするかっていうのを任されているのが私の役割だと思っているので、それがもう町長の仕事じゃないっていう話になってしまうとじゃあ、町長は何をすればいいのかという話になってくる。

参加者）
町長は町民の声を聞けばいい。ただ、それだけ。

町長）
どこかで何かの結論を出さなきゃ進んでいかないです。

参加者）
町民の意見を聞いた上で、最終的に結論を出すのはいいです。
でも、前提が間違っています。実は、これはまさにボタンの掛け違いという風に思っています。イエローゾーンそして源泉の問題。そこが解決しないという面で、改修をすること自体に、当初の15億円の改修がありないと私は思っていました。それから食堂も、充実してほしいというような意見がかなりいっ

ぱい出てきたと思います。そうすると、先ほど回答がありましたが、実際は中途半端な結果になるのではないかと思います。だから一度その誤りを、正してもう一度原点から議論するべきだというのが最後のチャンスだと思っています。時間を作ってください。

町長）
まず、いただいたご意見に対する回答は、きちんと町の方で回答させていただきます。今、おっしゃっていただいたようにあれもこれも要望を聞いたものを全部入れようとすればこうなるっていう絵になっていることも事実なはずです。なので、その中で整理をしながら、もともとの設計が出来上がっているものを、無理やりバリアフリーにしようとしても、やはりどこかに無理が出てくることも分かっています。なので、そういったところをどういう方向性を持って、最終的にこういうふうになったっていう、説明会は、必要であれば私たちはやり続けています。ですが、源泉の調査をした結果では、一日お風呂をずっと回したとしても、今の湯量で充分足りるっていうような報告を受けています。しかし、それが10年先や20年先となると、その湯量はどうなるのかについては、先ほど申した通り、誰もわからないところです。なので、現在これだけの湯量があって、一日の温泉を回すことができるという結果をいただいたとすれば、私たちは、そこを信じて、やっていきましょうという方向性で持っていくところでご理解をいただきたいと思います。もう一つ、イエローゾーンの話ですが、もちろんイエローゾーンが危険なところだという認識はあります。しかし、イエローゾーンに建物を建ててはいけないとか、営業してはいけないということはありませんので、ご理解をいただきたいと思います。指定管理者の方や、ここに来られる方には、この場所がどういう状態になるかということを分かるように、きちんと告知をするなどしていきたいと思います。また、先ほど申した通り、土砂災害等も必要な時には営業を止めるとか、そういうことで、十分対応はできると思っています。今までもやってきた上で、これからも、もう30年ぐらいはあの場所で、今の建物でやれるだろうという形を作ろうとしています。15億円というのは確かに高いですが、例えば5億とかで、今の温泉のポンプや、送水管だけ直して、集客能力を上げるとか、町民の皆さんに喜んでいただけるような施設に変わるというところを、なかなか認めてもらえないとしたら、15億の方が高い、安いという議論ではなくて、今、町が出せる範囲のお金で、現時点の概算設計では15億までいっていないので、その予算の中で駐車場を拡大して整備をすることができるのかどうなのか、最終的には実施設計をやりながら、細かいところを含めて、説明会などが必要であれば、町の方で計画をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

参加者）
そういうのは基本設計の段階の話じゃないですか。基本設計でそれをやらなきゃ。今の話をみんなで検討しなきゃいけなかったと思います。

町長）
ご意見としてお伺いいたします。いろんなご意見を活かしていただいた中で、それがすべてうまくいってないとすれば、それは私の責任であります。大変申し訳ございませんでした。これから、そのようなことがないように、取り組んでまいりたいと思っております。しかし、議会の方に町が話をしなかったみたいなところが、ご意見がありましたが、委員会ごとに話をしていますし、検討委員会では議会の方も参加をされているので、そういうところから議員さん方には伝わっているとそういう判断をしています。それが細かく、伝わってなかったということであれば、非常に申し訳なかったと思っております。
　時間もだいぶ過ぎてまいりましたので、以上をもって、本日の会議については終了させていただきたいと思います。お手元のアンケート用紙がありますので、聞き切れなかったことなどについては、ぜひアンケートにご記入いただきたく思います。よろしくお願いいたします。

町長）
最後のご挨拶をさせていただきます。両施設とも目的が違っているのですが、最終的には町にとっていかに活用されるか、必要な施設になるかということが重要になってきます。特に今の問題については、観光や、誘客など、高森町が今までやってきてない分野に対して、機能を発揮するかどうか非常に難しい問題を抱えていますが、そこにプラスアルファとして、リニアの開発や、三遠南信道があったりした時に、高森町はその誘客事業としてどんなことをやっているのかというようなところも含めて、やはり必要な施設になってくると思っています。それを民間の皆さんのご協力を得て、活かしたものにしていくのは大切なことではないかなと思っています。福祉センターは町の顔でありますので、また来客側と連携した建物ということで、素晴らしい建物として活用していただけることを、期待しています。財政状況等についてもご心配はあるかもしれないですが、私が町長になってからの8年間を振り返れば、実質交際比率については、10%を切り現在7%まで下げることができましたし、基金も私が町長になった当時は多分10億ぐらいしかなかったのが、だいたい今、20億の基金を積むことができています。そういったことも、いろんな事業をやることによって得られるっていうのがたくさんあるということも、ぜひご理解いただきたいと思います。箱物だけではなくて、そういったことも一生懸命、含めているつもりではありますので、そういったものをご理解いただきながら、それでも、もっとお金を使ってでも他のことをやれということもあるかもしれないですが、それはそれでまたご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは以上をもって、本日の説明会の方は終了とさせていただきたいと思います。本日は大変お世話になりましたありがとうございました。

　※事実と異なる発言が含まれますが、発言内容をそのまま掲載します。